



玉井 金五教授

玉井金五教授の退任記念号に寄せて

玉井金五教授は、令和4年3月31日をもって本学経済学部を退職されました。先生は昭和48年3月に岡山大学法文学部経済学科を卒業され、昭和55年3月に大阪市立大学大学院経済学研究科博士課程を単位取得退学されています。その後、平成4年12月に大阪市立大学にて博士(経済学)の学位を取得されました。職歴につきましては、昭和55年4月に大阪市立大学経済学部助手、同57年4月に助教授への就任を経て、平成4年4月に教授に就任され、さらに同13年同大学大学院経済学研究科教授に就かれました。その後、同15年4月には同大学大学院経済学研究科長・経済学部長という重職に就かれました。さらに、同職を歴任された後、大阪市立大学都市問題資料センター所長、同大学学術情報総合センター所長、同大学教務担当部長の顕職に就任されました。その後、大阪市立大学を退職され、同26年4月に本学経済学部に教授として着任されました。そして、同29年4月より同31年3月まで本学経済学部長として重職に就かれました。

研究面では、玉井先生は、社会保障・雇用政策とその研究史を両輪として社会政策学会を精力的に牽引してこられました。近代都市政策の嚆矢となった大阪をはじめとする政策の歴史のほか、経済学のみならず社会学にまたがる社会政策の研究史について、日英の異同やアジアとの比較なども視野に、今日まで幅広い成果を発表されています。概念としての「防貧」に改めて光を当てられたことをはじめとして、わが国の社会政策研究の発展に大きな足跡を残されました。

教育面では、玉井先生は社会政策論や社会保障論の授業を担当され、特に専門演習を重要視されていました。斯学の権威である玉井先生の情熱的で懇切丁寧な授業を慕って数多くの学生が専門演習に集まり、つねに専門演習への応募者は過剰な状態でした。そして、多くの俊英が社会人として巣立っていきました。特に、先生の人格をはじめ、積年にもとづく教育に対する優れた技量には感服いたします。また、教育面以外でも、社会政策学会、日本経済学会連合、日本学術会議における要職を歴任されました。また、「第7回冲永賞」(財団法人・労働問題リサーチセンター)や大阪市民表彰(社会公益部門)などを受賞されています。

本学経済学部はその設立から10年目を終えようとしています。玉井先生は、まさに本学経済学部の基盤を充実させるべく重要な時期に在職され、私どもは先生の豊潤な学識やご経験により、さまざまな面でご指導を賜りました。少子化が進む中、大学の教育環境はますます厳しい状況にあります。私どもは先学より築き上げていただいた成果を真摯に継承し、さらなる飛躍を遂げてまいりたく存じます。

ここに、玉井先生の退職記念号を刊行させていただき、先生のご功績を讃えるとともに、これまでの幾多のご尽力に深謝いたします。

令和5年3月

経済学部長 吉田雅彦